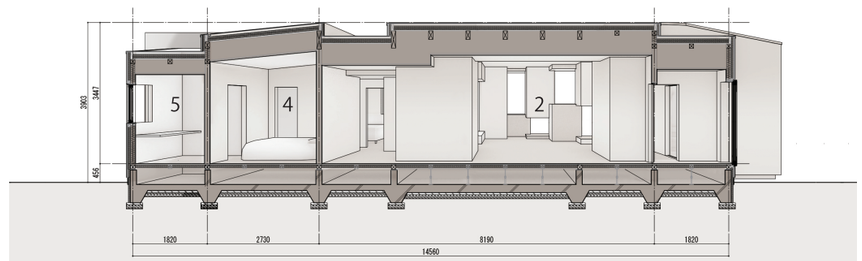
つらなりの家







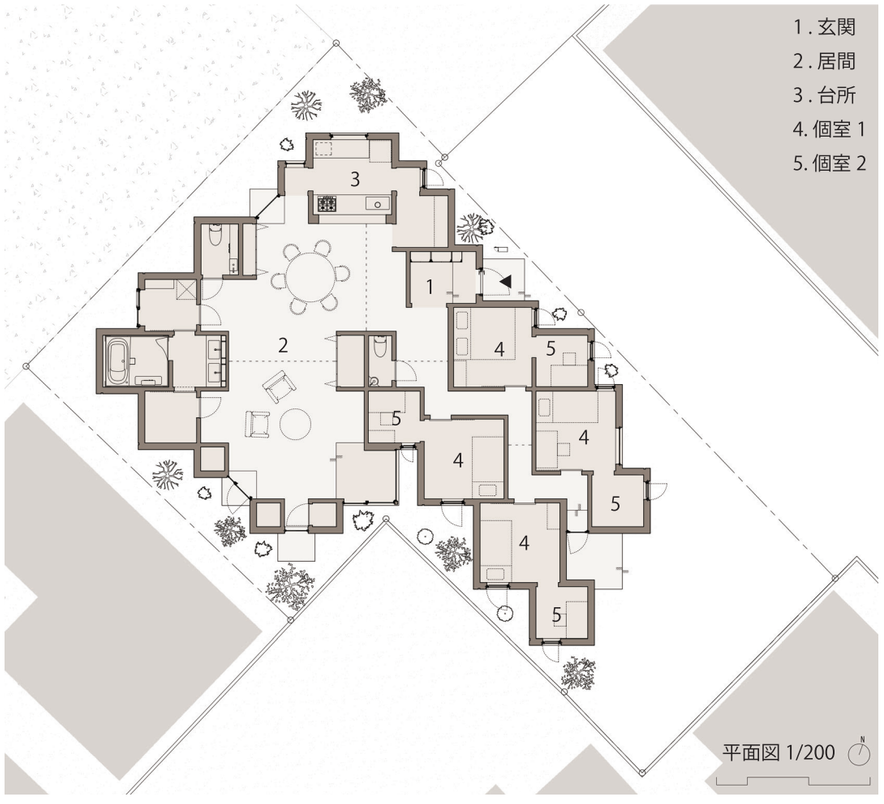
断面図 1/150







施主は日々の喧騒から離れて心を落ち着けられる、穏やかな環境を求めていた。そこでこの住宅では、建物の凹凸や床、天井の高低差によって街の気配をやわらかく遠ざけながら、光や風を丁寧に取り込むことを考えた。一つの大きな箱ではなく、異なる大きさと高さをもつ小さな空間を、少しずつずらしながら連ねている。その隙間に生まれる庭や窓を通して、日光の豊かな緑や空、遠くの山といった外の風景が、静かに室内へと入り込む。建物の凹凸によって縁取られた中央の空間では、壁の出入りや床の段差によって、いくつもの居場所が緩やかに分けられている。厚みをもたせた窓辺は、座る、読む、遊ぶ、外を眺めるといった、さまざまな時間を受け止める場所である。家族は同じ空間にいながら、それぞれが心地よい距離を保ち、移ろう光に導かれるように、その時々の居場所を選ぶことができる。日々の暮らしの中に、静けさを取り戻すための小さな住まいである。





奥の隙間に緑をのぞむ居間



小さなボリュームに縁取られた居間

建築主コメント

家族がそれぞれに時間を過ごせる場所が、家の中にたくさん見つかるような仕掛けをお願いしました。人が多様な造形のある環境の中に暮らす場を見つけてきたように、建物と人との間にアフォーダンスが生まれるような形が望ましいと考えました。小さな箱を寄せ集めて組み上げられたこの家には、内にも外にも多様な造形や風景が生まれています。部活から帰った長女は自室で仮眠、ラウンジでは次女と長男がゲームをしながら談笑し、合間に自分の小部屋に戻って勉強したり、気ままにお風呂に入ったり。私たち夫婦はリビングや書斎で作業や読書をしながら、そんな賑やかな様子を窺います。建物を回遊するうちに自然と顔を合わせることになるダイニングは家族の集いの場になり、一人でいることと共にいることが両立する、小さなコミュニティのような家になっています。

設計者コメント（アトリエ MEME）

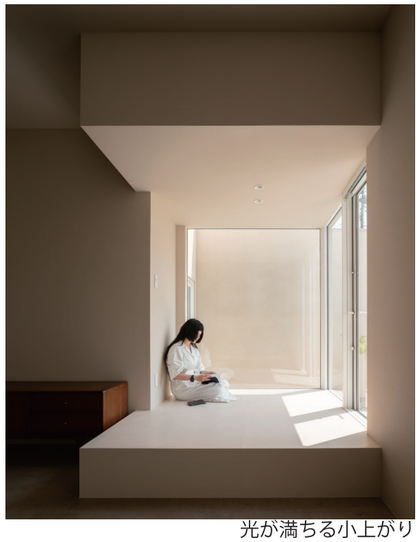
穏やかに暮らせる住宅とするため、周囲の自然や建物との関係、家族それぞれの距離感を軸に考えました。平面構成など将来像を含めた多角的な検討を重ね、つらなる小さなボリュームのずれの中で、気配や光、緑が心地よく点在する計画を導き出しました。一方で、複雑な平面や屋根高さによる防水納まりや配線計画が課題となりました。施工面でも立体的な検討が必要であったため、3D モデルや現寸モックアップを作成し、施工者と緊密に協議を行いました。建築主と施工者の理解があってこそ、様々な現象が入り混じり変化していく、魅力的な住宅が実現できたと感じています。

施工者コメント (イケダ工務店)

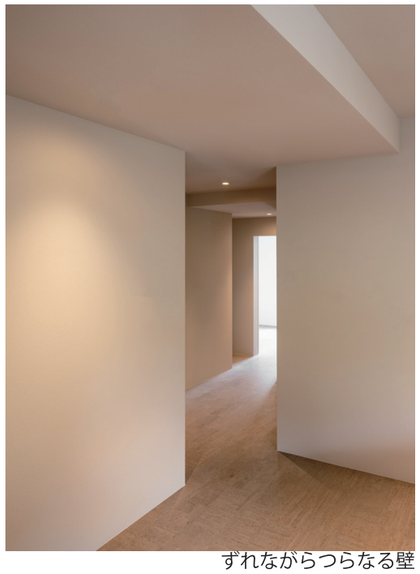
本プロジェクトの図面を初めて拝見した際、複雑な建物形状と限られた工期から、極めて高度な施工管理が求められることを実感いたしました。雨雪の多い地域特性に加え、複雑な屋根形状や特殊な仕上げ材による納期や施工業者の制約など、施工にあたっては多くの手探りや工夫が必要とされる現場でした。工程を確実に応えるべく、設計者・協力業者との緊密なコミュニケーションを徹底いたしました。特に設計者の方には頻繁に現場へお越しいただき、詳細な収まりやマテリアルの表情に至るまで丁寧な協議を重ねていただきました。多くの課題を一つひとつクリアし、無事に竣工を果たせたことは大きな誇りです。



奥に続く個室空間



光が満ちる小上がり



ずれながらつらなる壁